

## 『スポーツとジェンダー研究』 編集規定

2002年10月  
2003年7月改訂  
2005年11月改訂  
2014年6月改訂  
2016年6月改訂  
2019年6月改訂

1. 本誌は、日本スポーツとジェンダー学会の機関誌として、原則として毎年1回発行する。
2. 本誌は、原則として本会会員による未発表の投稿原稿（総説、原著論文、研究ノート）、学会大会登壇者論文等、海外文献紹介、書評、学会動向などを編集掲載する。
3. 投稿原稿は、以下の3種類とする。
  - 1) 総説：特定の分野やテーマに関する先行研究を集め、その分野やテーマの概説・研究動向・展望を示したものの。
  - 2) 原著論文：独創性・新規性のある知見を提示すると認められる論文。
  - 3) 研究ノート：研究・調査等によって得られた知見をまとめたもので、研究上の有用な資料となるもの。
4. 投稿原稿の掲載は、編集委員会が委嘱した複数の審査員による審査結果に基づき、同委員会において決定する。
5. 投稿原稿以外の原稿については、編集委員会で審査し、必要であれば、投稿者と修正について協議する。
6. 投稿者による校正は初校までとする。
7. 本誌に掲載された論文の著作権(公衆送信権)は日本スポーツとジェンダー学会に帰属するものとする。
8. 本誌の目次および掲載論文等は、原則として「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を通じて公開する。ただし、編集委員会が特別の事情を認めた場合は公開しないことがある。

(付記) 編集委員会の事務局は、原則として編集委員長または委員が所属する機関に置くこととし、学会ホームページを通じて会員に周知する。編集委員会事務局のメールアドレスは、edit\_board@jssgs.org とする。

以上

## 『スポーツとジェンダー研究』 投稿規定

2002年10月

2003年7月改訂

2014年3月改訂

2014年6月改訂

2016年6月改訂

1. 原稿は、原則として本文を日本語とし、ワードプロセッサで作成したものとする。
2. 投稿者は、下記のいずれかの方法で原稿を編集委員会事務局に提出する。審査の公平性を確保するため、オリジナル原稿以外の印字原稿（コピー）またはデジタルファイルには、氏名、所属、謝辞等、著者を特定することができる情報を記入しない。
  - (1) 印字した原稿を郵送・宅配便等で提出する場合  
A4判に印字した原稿及びそのコピー2部の計3部で提出する。なお、審査終了後掲載が認められた場合、文章及び図表が保存されたデジタルファイルを提出する。
  - (2) 原稿のデジタルファイルをメールや記録媒体（CD-ROM、USBメモリ等）で提出する場合  
オリジナル原稿のデジタルファイルと審査用デジタルファイル2点を提出する。デジタルファイルの形式は、Microsoft Word もしくはPDF、図表はMicrosoft Excel、写真はjpg またはPDF とする。
3. 論文は、図表なども含めA4判に40字40行で14枚以内、研究ノートはA4判に40字40行で10枚以内とし、それぞれに著者、所属、連絡先、メールアドレス、キーワード3～5語及び300語以内の欧文抄録とその日本語訳を添付する。外国文献紹介、書評、学会動向などはA4判に40字40行で原則として10枚以内とする。この分量を超過した場合や特殊な印刷を必要とする場合には、その実費を投稿者が負担する。
4. 挿入する図表は、直接印刷できる正確で鮮明なものとし、投稿者が、通し番号とタイトル（図は下、表は上）をつけて、該当箇所に貼り付けておく。
5. 注は一括して論文末に掲げ、本文中の該当箇所の右肩に1）、2）のように挿入する。
6. 引用文献は、本文の該当箇所に、（執筆者名、発行年〔西暦〕、引用頁）の形式で示し、外国文献の著者名は、原著では欧文表記、翻訳書ではカタカナ表記とする。

<例> （木村，1999，p.88）、（Hall，1996，p.88）、（ホール，1996，pp.23-24）  
（來田・田原，2001，p.9）、（Fejgin and Hanegby，2001，pp.45-48）  
（熊安ほか，2001，p.11）、（Fasting et al.，2000，pp.3-8）

※引用頁は、読者が引用箇所を参照できるように、可能なかぎり明記してください。
7. 文献一覧は、注一覧の後に著者名のアルファベット順で記載する。著書の場合は、著者名（外国人の場合も姓を最初にする）、発行年（同年に発行された同じ著者の文献を2冊以上引用する場合には、2002a，2002b のように表記する）、書名、出版社名、発行地の順に、論文の場合は、著者名、発行年、論文名、掲載雑誌名、巻（号）：頁の順で示すものとする。

<例> 著書の場合 木村涼子（1999）学校文化とジェンダー．勁草書房：東京。  
Hall, M.A. (1996) Feminism and Sporting Body. Human Kinetics: Canada.

熊安貴美江 (2003) 男女いっしょの体育は無理? : スポーツ・身体とジェンダー.  
天野正子・木村涼子編. ジェンダーで学ぶ教育. 世界思想社: 京都, pp. 139-134.  
論文の場合 来田享子 (1998) アムステルダム大会への女子陸上競技採用決定直後の FSFI と  
IOC の書簡の検討. 体育学研究 43 (2): 91-101.  
Brackenridge, C. (1997) He owned me basically...: Women's Experience of  
Sexual Abuse in Sport. International Review for the Sociology of Sport 32:  
115-130.

8. 掲載論文の別刷りを希望する場合は、著者校正時に、必要部数を申し出るものとするが、その費用は投稿者の負担とする。

以上